

# 子どもが心豊かに育つ保育は、 どのようにしたらよいか

芙蓉保育園 藤 原 章 世  
平 野 佳奈子

## 1. 研究経過

芙蓉保育園では、上田市保育園連盟で示している表記のテーマのもとに、園のテーマも同様に設定し、毎年研究を続けている。

本園は、モンテッソーリ教育を取り入れ、自由教育で縦割りクラス形態の保育を行っている。抽出児を選び、その子どもの表現、活動、又事物、事象、人へのかかわり特に心の動きや内面からの要求を見ながら、あるがままの子どもたちの姿を毎日克明に記録し、それを通し検討を重ねながら保育のあり方を考えてきた。

「自分で学ぼうとする」力が培われているか。また、友達に対する「思いやりの心」を育てるには、どのような環境設定をしたらよいか。そして、すべての子どもたちが、安定した気持ちの中で意欲的に活動できるために、その子どもをとりまくクラス全体のあり方、などの点に配慮している。

その年度に得た結果や課題を年頭におき、次年度へ引き継ぎ同じような形で今日まで研究を重ねてきている。ただし、平成2年度、3年度は全体の保育を把握するうえで、保育者の主観を入れずに無差別に抽出したが、4年度、5年度においては、保育者がより手だてをしてあげることが必要と思われる子どもを担当クラスより抽出した。また、園内の研究にあたっては、園の目標である「整えられた環境で自由に活動し、その中で『自分で学ぶ』能力を育み、生涯にわたって自己教育の基礎をつくる」ということを根底において研究している。

平成2年度以降の研究テーマは、以下のとおりである。

### 平成2年度

子どもたちに思いやりや優しさを育てていくためには、どのような環境をつくり、またどのような援助をしたらよいか。

## 平成3年度

保育者、友達とふれあい、安定感をもって意欲的に進んで行動するようになるには、どのような環境が必要か。また、保育者は、子どもの動きをどう受け止め働きかけたらよいか。

## 平成4年度

子どもの豊かな感性を育み、友達に対する思いやりの気持ちと、意欲的に行動できる環境をいかに整えたらよいか。

## 2. 平成5年度の研究

### (1) 研究テーマ

子どもの豊かな感性を養い育て、友達に対する思いやりの気持ちと安定感を持って、意欲的に行動するようになるには、どのような環境が必要か。また、保育者は子どもの動きをどう受け止め働きかけたらよいか。

### (2) 設定理由

子どもの表現、活動、かかわり（特に心の動き、内面の要求）を見ながら、自主性、主体性が培われ、また、友達に対する思いやりの心を育てるにはどのような環境を整えてあげればよいか。そして、全ての子どもたちが安定した気持ちの中で意欲的に行動できるよい環境を見いだすために、今回のテーマを設定した。

### (3) 研究方法

縦割り形式のクラス編成なので、普段の保育の中から自然な形の子どもたちの姿やかかわりあいを見ていきたい。

研究方法については、平成4年度に引き続き、今年度も保育者がより手だてをしてあげることが必要だと思われる子どもを抽出したので前年度と同じであるが、次に示す。

1. 保育者が、それぞれ一名ずつ子どもを担当クラスの中より抽出する。
2. 抽出した子どもの記録を毎日克明にとる。抽出児の性格を理解し、その子どもに合った指導の方法を考えていく。
3. 抽出児を取り巻く子どもたちの変容をとらえ、どのような環境を設定し援助をしたか。
4. 研究テーマ（保育目標）に沿って適切な言葉かけや手助けができたか。抽出児の反応、成長（変化）を記録し、クラス全体の評価を行なう。
5. 保育過程の記録を整理し、どのような時に良い結果が出て、反対に悪い結果になっ

たかをまとめる。また、抽出した子どもたちや、クラス全体の雰囲気はどう変化したかをまとめる。今後の課題について考える。

#### (4) 抽出児の共通問題点

—中間検討会での問題点—

##### 1. 友達関係

なかなか集団の中に入れず単独で行動することが多かったり協調性に欠ける。

##### 2. 家庭環境

どの子どもに対しても一番大きく影響している。特に、母親の存在が大きく関与している。過保護になりすぎて甘やかしていることが、情緒不安定の一因にもなっているように思われる。

##### 3. 話が聞けず理解できない。集中力に欠ける。(言葉の問題)

聞いたことが理解できず全く違うことを答える。また、一方的に話すだけで聞くことができない。一対一だと理解できても全体で聞く話は理解できない。理解できないと集中力にも影響してくる。思っていること、してほしいことが伝えられない。まだ言葉が発達していず会話ができない。

以上の3点の共通問題をふまえ、現在も研究を進めている。A君、B君の場合、現在までの保育過程は次表のとおりである。

A 君（3 歳児）					ク ラ ス の 変 容	
み と り	留 意 点	指 導 内 容	現 在 の 子 ど も の 姿			
(a)食べ物に苦手なものがあると口から出してしまふ。すっぱいものが苦手である。飲みこむことができない。	◎苦手なものが出るとそのような態度をすることとそれが逃げ道になってしまわないよう何でも努力して食べられるようになってほしい。	◎経験のない食べ物は食べにくいので給食を通して咀しゃく力えん下力のない子にはそばについで、保護者が一緒に楽しく食事をとりながらからむところ、飲みこむところを見せる。食べられたらほめてあげ、自信をつけさせる。 給食室に給食人数を知らせる当番をすることにより、給食に頼しみがもてるようにする。また、苦手なトマトが少しでも好きになるよう園庭にあるミニトマトに水くれを一緒にに行く。	◎徐々に苦手なものも飲みこめるようになってきているが、気分によってムラがあり、飲みこむまでに時間がとてもかかってしまふこともある。特に生野菜、またりんごやなしの皮など。又、三角食べができず好きなもの、飲みこみやすいものから食べてしまふ。トマトは時間をかけて食べられるようになってきている。口の中に、苦手なものだけためて残していることもある。 ◎以前よりだいたい自分でできようようになってきているがまだムラがあり、できることとできないことがある。洋服を脱ぐことが難しい。しかし、以前のようにはできないと泣いていじれるようなことはなくなき保育者に言葉で伝ええることができる。してもらったらきちゃんと「ありがとう」と言える。		◎年少児なので年上の子に気にかけてもらいたい、できないことがあると手伝ってもらっている。「ありがとう」の挨拶もできる。このことにより、年下の子の面倒を見たり思いやりややさしさがめばえる。また、してもらってうれしい気持ちも持て、お互いのよい状態である。A君は年上の子にとってもあこがれているので年上の子がよいお手本になり、年下の子がまねをすることと育っていく。	
(b)基礎的なことができない。 (衣服の着脱、鼻水の始末など)	◎基礎的習慣を身につけ自立してほしい	◎自分でやろうと努力はするが、できないとわかるとやめる気がなくなってしまうので、ひとつひとつゆっくり見守り、できたことをほめ自信をつけ自立をはかる。	◎だんだん聞けるようになってきている。自分勝手に話をしようことがなくなっており、全体の話のときでも話し手の目を見て、聞くことができる。ただ1対1で話をしているとき、まわりが気になり話し手の目を見ず答えることがある。また目を見てもすぐにそらしてしまうこともある。			
(c)1対1の話はよく聞くことができ理解できるのに、全体で話になると、聞くことができない。	◎全体に話しているとき、声を出さず静かに集中して聞けることよい。	◎まずは1対1で目を見てゆっくり話をし、聞く態度を身につける。	◎室内活動では一人で集中して、仕事をすることが多く友達と行うことは少ない。しかし、室外活動になると、積極的に友達と接する姿が見られる。また、他児のほうからほとんどん接してくる。まわりの環境がだんだん見えてきて、徐々に友達と遊ぶ楽しさを味わっている。			
(d)友達の間で1人遊びをしている。	◎友達とかわかって遊べるようになることよい。	◎十分一人で遊びこむとまわりも見えてくるので、満足いくまで1人遊びを楽しませる。			◎病気がちのことを年中・年長児は知っているの、それが年少児にも少しづつ理解できているようである。昨年は友達は何でもやめてあげてしまひ、特別あつかいしてしまうことがあったが、この頃は見守るということができるようになってきている。B君が成長するともにもまわりの子にも成長が見られる。これからにはもっと信頼関係を深め、集団の中へ入れるように指導していきたい。	
B 君（4 歳児）… 病 弱 で あ る						
(a)去年に比べおちついてきており、他児に迷惑をかけるようなことになってきてくることが多い。1人の世界に入っている。	◎友達との交流が持て、一緒に遊ぶ楽しさを知ってほしい。	◎無理に場を設定するのではなく、自然に輪の中へ入って行けるよう保育者と一緒に接する機会を多くもつ。様子を見ながら声をかけ、見守る。	◎園内の生活はだいたいおちついてきている。去年からの積み重ねで十分経験しているところは理解しているが、初めてのことに慣れて落ちつかなくなってしまう。 感情がおさええられないところがある。自分のイメージや自分の世界のなかで活動することが多いのでまだ友達と遊ぶことは少ないが、B君の興味あることだと友達と接することができる。外遊びでは1人遊びが多い。自由に走り回ったり、またジャングジムなど友達のそばに行く遊びに入っている。サッカーなど友達が向いたときに急に入る友達がききこくかへ行ってしまふ。昆虫の観察はとも集中する。 ◎話が聞けるようになってきている。会話はまだ一方的なことが多いが短くも少しずつできてきている。都合が悪いことに対して、全く違うことを言うことは最近なくなってきたが、現在ではやりたくないことに対して、「明日やるよ。」「ちよつと先生やっておいてね。」と言う。			
(b)自分中心でまわりが見えず、自分のペースである。言いいたいことは一方的に伝えるが、聞くことができない。 ・自分に都合が悪いことやいやなことをした時保育者の質問に対して全く違うことを言う。	◎話をきき人と聞けて理解でき答えられることよい。会話がでるようになることよい。 ・質問に対してきき人と答えられるようになることよい。 ・情緒的な面でも母が接しているため精神面が育っていないのではないだろうかと。 ・下の子が生まれることに対しての影響はどうだろうか。去年はよく1人で他のクラスへ行ってしまったが行かなくなってきたのはどうしてか。	◎発言を記録に残し、言語面を気をつけて見ていく。 目録を合わせて語をする。 会話をするように心がける。 ・何度もうくり返し経験したことは判断できるもので、より多く経験させていく中で、ルールをきくと伝えていく。	・下の子の話は自分からは言わない。廊下で3歳未満児にあらうと時々かわいがり姿が見られる。 ・新しいところではふらふらしてしまうので去年は園内のすべてのものがめずらしく、1年経験したので理解したのではないだろうか。B君も自分がどこにいたらいかが理解している。			